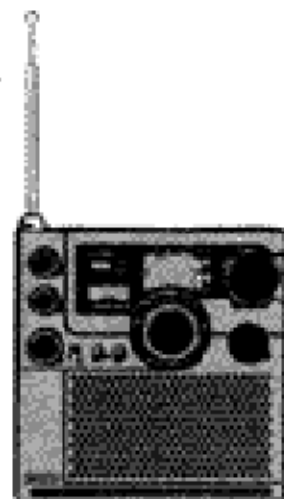


FM/MW/SW₁/SW₂/SW₃ 5バンドレシーバー

スカイセンサー 5900



取扱説明書

この取扱説明書を読んで正しく使いましょう。
保証書と説明書は、いっしょに保管してください。

FM・中波・短波をカバーするスカイセンサー5900。
デュアルコンバージョン回路の採用、選局を容易にするクリスタルマーカ―と短波専用スプレッドダイヤルの併用で目的の短波

局を的確にキャッチ。もちろんFM・中波とも選択度は抜群。
世界の電波をとらえるスカイセンサー5900で国内局はもとより海外局ハントを充分にお楽しみください。

目次

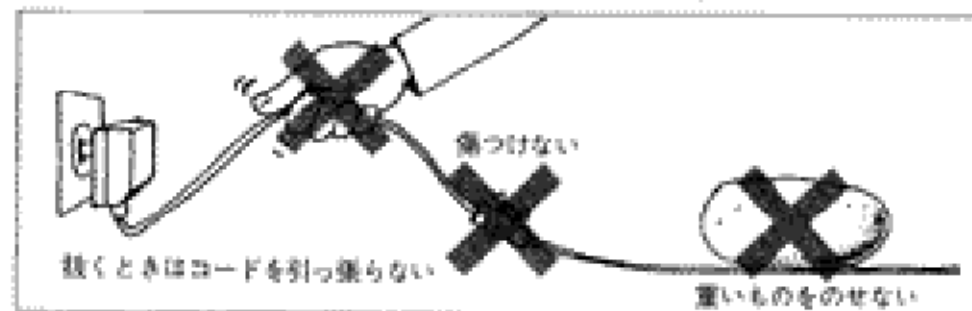
安全上のご注意	2	無線マイクの拡声器として	9
取扱い上のご注意	2	肩かけベルトのつけかた	9
電源について	3	側面のジャックの使いかた	10
各部の名称と使いかた	4	外部アンテナについて	10
短波放送受信の場合	6	保証書とアフターサービス	11
SSB/CW受信の場合	8	トラブルチェック	12
中波放送受信の場合	9	主な規格	12
FM放送受信の場合	9		

安全上のご注意

このラジオはDC(直流)4.5V(ボルト)、または付属のACパワーアダプターを使ってAC(交流)100Vでお使いください。

付属のACパワーアダプターAC-110以外のアダプターは使用しないでください。

ACパワーアダプターは大切に扱ってください。



2

長い間使用しないときは、アダプターをコンセントから抜いておいてください。

ラジオ内部に液体をこぼしたり、ピンなどの金属片を突っ込まないようにご注意ください。故障や事故の原因になります。

故障した場合は、キャビネットをはずさずに、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

外部アンテナを接続している場合で、落雷のおそれがあるときは、外部アンテナをアンテナ端子からはずしてください。

アースをとる場合は、ガス管につながないでください。

ラジオ表面の通風孔はふさがらないでください。

特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在または内容を漏らしたり窃用したりすることは、電波法で禁止されています。

取扱い上のご注意

ラジオの置き場所について、次の点に充分ご注意ください。

●直射日光が長時間あたる場所や暖房器具の近くなど、温度が非常に高い所(80℃以上)でのご使用、放置は避けてください。特に窓を閉めきった自動車内などに直射日光をあてたまま放置すると、季節により100℃以上になることがあり、キャビネットが変形したり、故障の原因になったりする場合があります。

●次のような場所も避けてください。
風呂場や雨が吹き込む所など、水がかかる所や湿気の多い所。
磁石やスピーカーボックスのすぐそばなど、磁気を帯びた所。
ほこりの多い所。

ラジオが落ちるような不安定なところには置かないでください。

持ち運ぶときは落とさないようにご注意ください。

長い間ラジオを電池でのご使用にならないときは、電池を取り出しておいてください。

電池の“液もれ”が故障の原因となる場合があります。万一“液もれ”を起こしたときは、電池ケース内についた液を柔らかい布でよく拭きとってから新しい電池を入れてください。

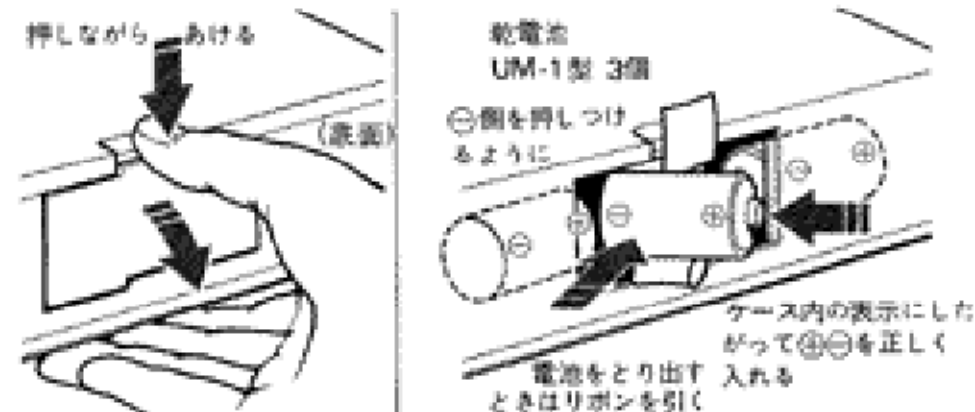
ラジオが汚れたときは、柔らかい布でふいてください。

シンナーやベンジンなどの化学薬品はキャビネットをいためますので、使わないでください。

このラジオのFMバンドは日本国内用ですので、周波数の異なる外国ではお聞きになれません。

電源について

乾電池で使うには



●長い間ラジオを使用しないとき、長い間他の電源で使用する場合には、電池を取り出しておいてください。入れたままにしておくと、液が漏れて故障につながることもあります。

電池の消耗度を調べるには——電源スイッチ[POWER]をONにして選局つまみ[MAIN TUNING]を回し、どの局も受信しない状態にします。バッテリーメーター[TUNING & BATT METER]の針が左側の白の太線内に振れば、電池はまだ使えます。その部分まで振れない場合は、電池を全部新しいものと取り替えてください。電池が消耗してくると、音が小さくなったり、ひずんだりします。



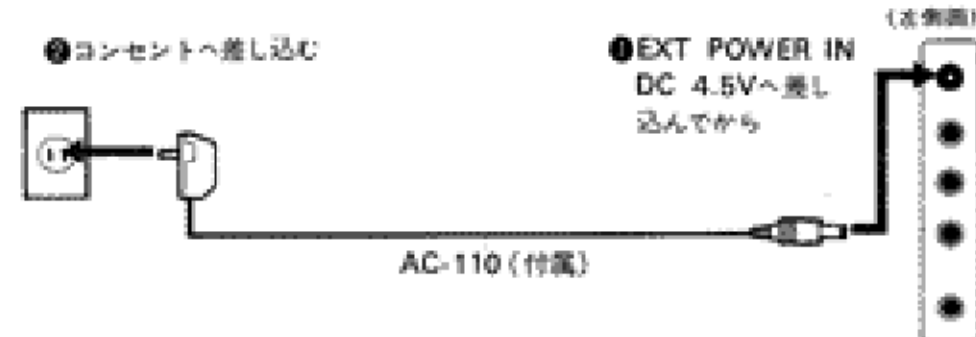
良い状態



交換してください

●ACパワーアダプターやカーバッテリーコードがラジオにつながれていると電池は働きません。電池で使うときは、これらをコンセントや自動車のソケットからだけでなくラジオからも抜いておきます。

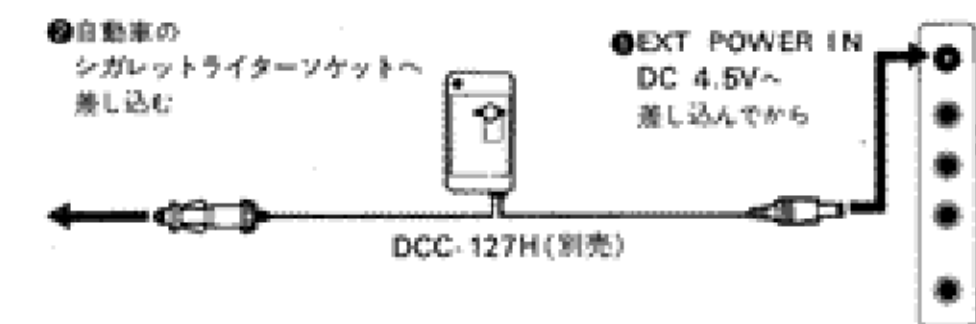
電灯線電源で使うには



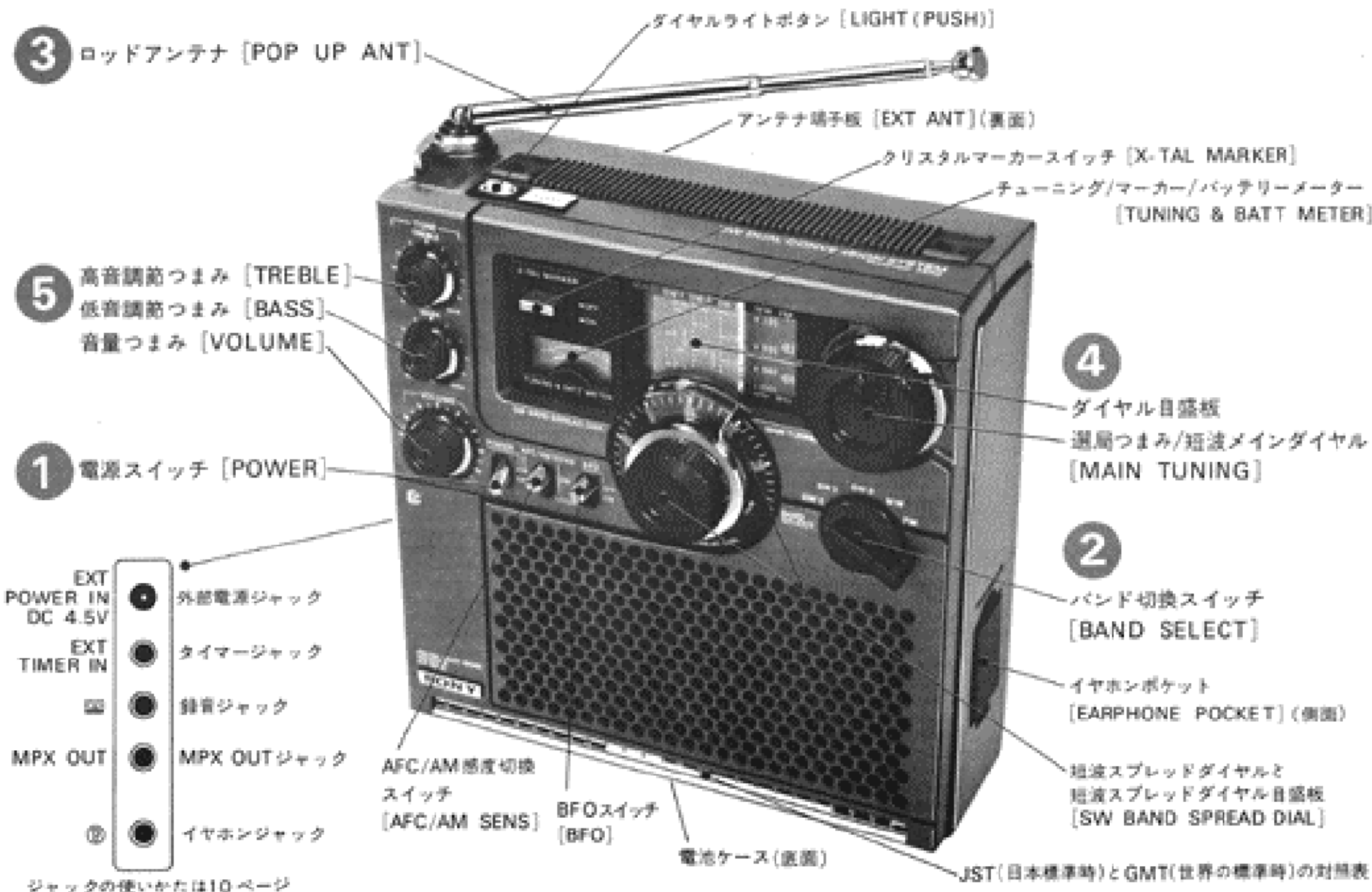
●付属のACパワーアダプターをラジオに差し込むと、電池が入ったままでも自動的に電灯線電源に切り換わります。

自動車のバッテリー(12V)で使うには

ソニーカーバッテリーコードDCC-127H(別売)を図のようにつなぎます。詳しくはDCC-127Hの説明書をごらんください。



各部の名称と使いかた



- EXT POWER IN DC 4.5V ● 外部電源ジャック
- EXT TIMER IN ● タイマージャック
- 録音ジャック
- MPX OUT ● MPX OUT ジャック
- イヤホンジャック

ジャックの使いかたは10 ページ

JST (日本標準時) と GMT (世界の標準時) の対照表

FM・中波・短波のどの受信の場合も、番号順に操作します。受信バンドによるスイッチ類の操作の違いは、各々の「受信の場合」を合わせてごらんください。

1 電源スイッチ[POWER]

ONにすると電源が入る。聞き終わったらOFF。

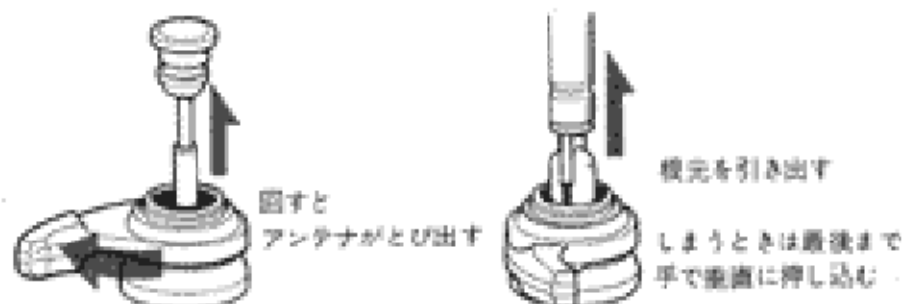
2 バンド切換スイッチ[BAND SELECT]

聞きたいバンドに切り換える。

FM：FM放送、MW：中波放送、SW₁・SW₂・SW₃：短波放送

3 ロッドアンテナ[POP UP ANT]

FMと短波放送を聞くとき使う。



4 選局つまみ/短波メインダイヤル[MAIN TUNING]

ダイヤル目盛板

聞きたい局を選ぶ。チューニングメーターの針がもっとも右に振れるところが同調点。短波放送受信時はメインダイヤルになる。

5 音量つまみ[VOLUME]

右に回すと音が大きくなる。

高音調節つまみ[TREBLE] 低音調節つまみ[BASS]

右に回すと高音(低音)が強調される。

ダイヤルライトボタン[LIGHT]

電源スイッチONでこのボタンを押すと、ダイヤル目盛板と短波スプレッドダイヤル目盛板、チューニングメーターが照らされる。暗い場所での選局に便利。

クリスタルマーカースイッチ[X-TAL MARKER]

短波受信時、ONにすると0.25MHz(250kHz)おきにビート音(ビーという音)が聞こえる。メインダイヤルの校正に使用。

短波スプレッドダイヤル[SW BAND SPREAD DIAL]

短波受信時、メインダイヤルで選局したのち、さらに正確に同調をとるとき使用。→6ページ

BFOスイッチ[BFO]

通常はOFF。SSB(単側波帯)通信やCW(電信)を受信するときにONにする。→8ページ

チューニング/マーカ/バッテリーメーター [TUNING & BATT METER]

選局時はチューニングメーター、短波受信時クリスタルマーカースイッチONでマーカメーター、離調時は電池の消耗度を示すバッテリーメーター。

AFC/AM感度切換スイッチ[AFC/AM SENS]

FM受信時は、AFCスイッチ、中波・短波受信時は感度切換スイッチ。→9ページ

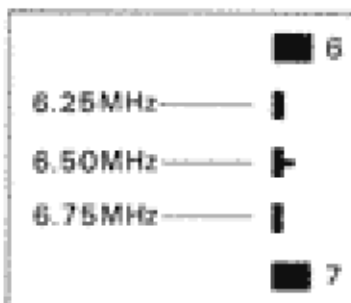
*校正：計器類の狂い、精度を、標準器と比べて正すこと。

●乗り物やビルの中では電波が弱められますので、なるべく窓際でお使いになるか、外部アンテナを接続してください。

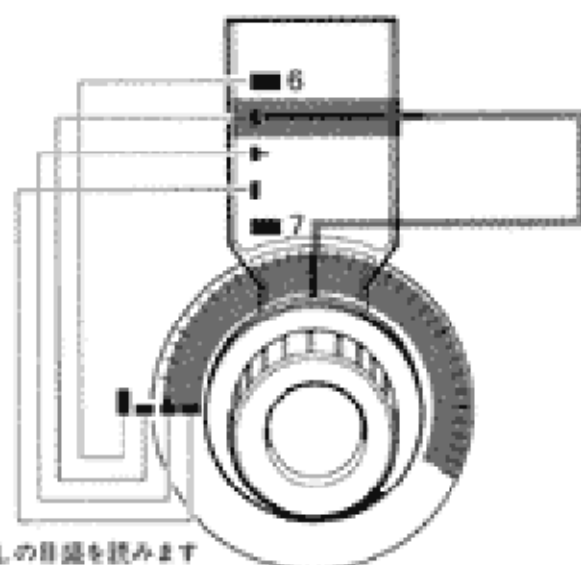
短波放送受信の場合

アンテナ ロッドアンテナをいっばいに伸ばし垂直に立てます。聞きたい局の電波が非常に弱い場合、またはもっとよく受信したい場合は、外部アンテナを使用してください。その場合、ロッドアンテナはしまっておきます。

短波目盛板とスプレッドダイヤル
短波目盛板の目盛は0.25MHz(250kHz)おきです。
例えば6~7MHzの範囲は右図のようになります。



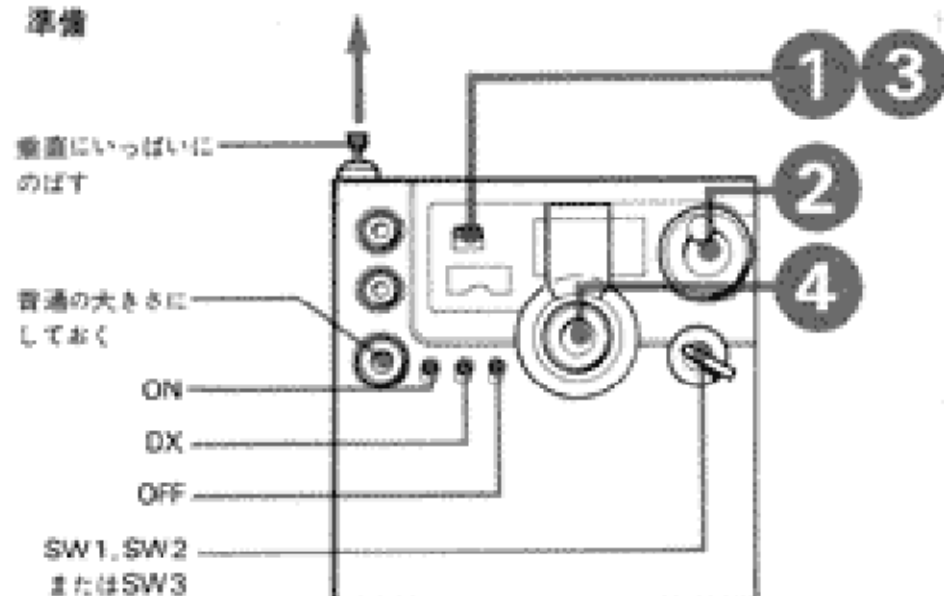
この目盛を中心にして、±0.130MHzの範囲に拡大するものがスプレッドダイヤルで、1目盛は0.010MHz(10kHz)です。
例えばメインダイヤルを6.25MHzに合わせた場合はスプレッドダイヤルで6.120~6.380MHzまで可変できます。



選局のしかた

メインダイヤルをゆっくり回すだけで短波を受信することもできますが、聞きたい局の周波数に正確に合わせたい場合、またメインダイヤルを回すだけではメーターが振れずに通りすぎてしまう弱い放送を受信したい場合にはスプレッドダイヤルを使います。

準備



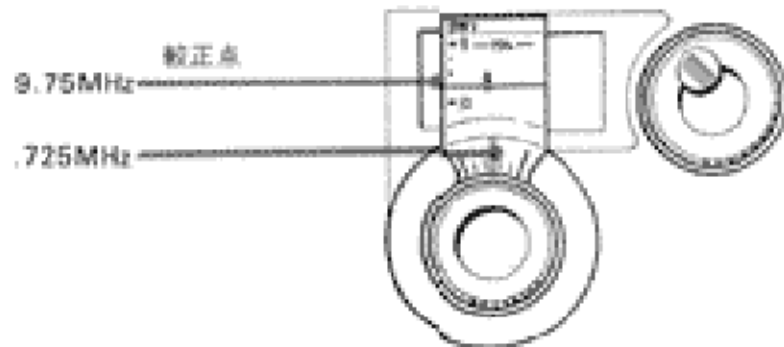
- 1 クリスタルマーカースイッチをONにします。
●マーカースイッチをONにすると、スプレッドダイヤルがどの位置にあっても $\frac{0}{.250}$ にしたと同じ状態になりますので、次の②を行なうときに、スプレッドダイヤルを $\frac{0}{.250}$ に合わせる必要はありません。
- 2 メインダイヤルを回し、短波目盛板の指針を聞きたい局の周波数に最も近い目盛(0.25MHzおき)に合わせます。こまかく左右

に回し、ピーというビート音が聞こえ、^{*}メーターの針が右に振れる位置でとめます。そこがこの目盛の校正点です。●聞きたい周波数とその校正点のえらびかたは次ページの表を参照してください。

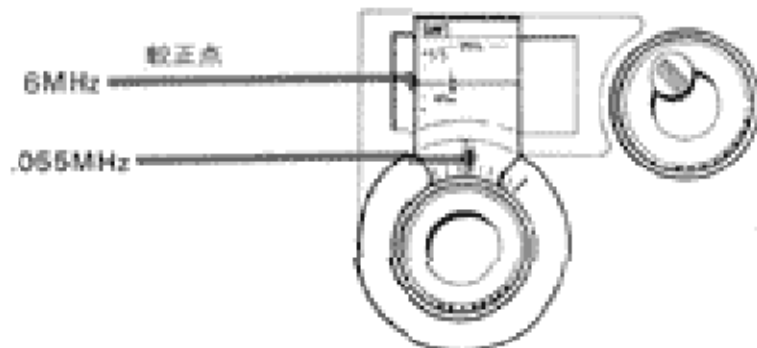
3 マーカースイッチをOFFにします。

4 スプレッドダイヤルを聞きたい局の周波数の小数点以下3ケタの数字に合わせ、放送が聞こえるようにこまかく回します。

9.725MHz受信の場合



6.055MHz受信の場合

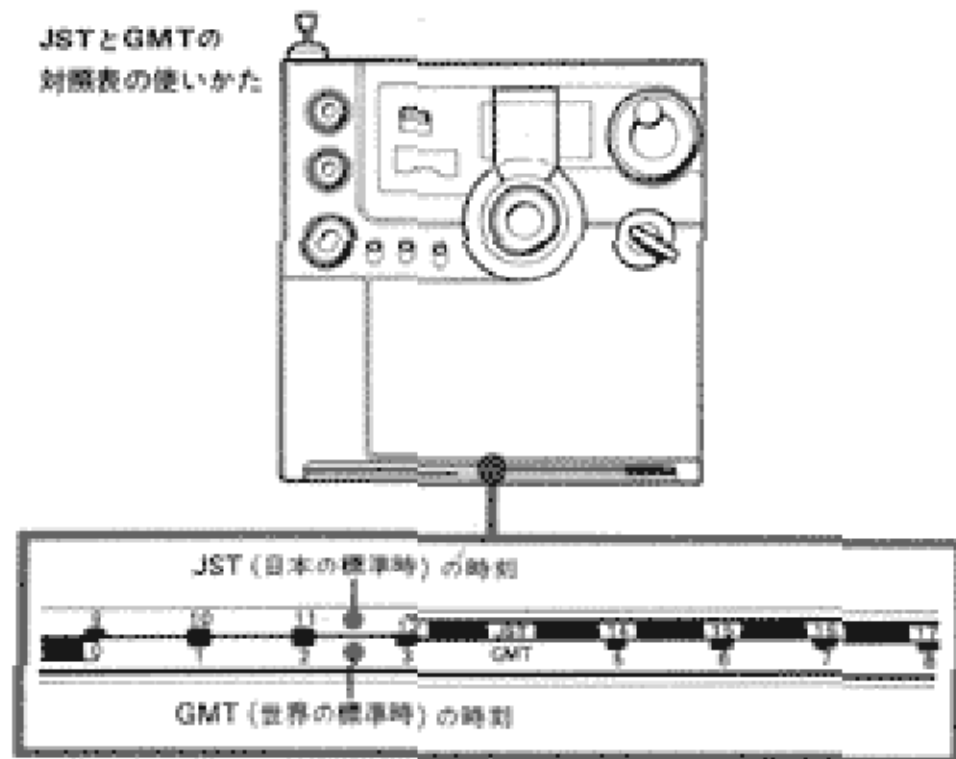


*1 外部アンテナを使用した場合、受信条件によって非常に強い放送が入った場合、0.25MHzおき以外にもビート音が出る場合があります。マーカー信号(0.25MHzおき)の場合には、メーターはいつも一定の位置まで振れますが、外部からのビート音の場合にはフェージングによりメーターがふらふらしたり、ひずんだ音が同時に聞こえたりします。

正確な校正点を知るには

校正のしかたは上記のようにビート音を聞き、メーターの針の振れを見ることですが、ビート音の音の変化を聞きとると、より正確な校正点を知ることができます。ビート音が聞こえたらその範囲でメインダイヤルをこまかく回します。ビート音は、高い音-低い音-聞こえなくなる(ゼロビート)-低い音-高い音と変化します。このゼロビートになる位置が正確な校正点です。

JSTとGMTの
対照表の使いかた





受信周波数とマーカー校正点

(メーターバンドのみ)

メーターバンド(m)	受信周波数 (MHz)	校正点 (MHz)
75	3.87 ~ 4.13	4.0
60	4.62 ~ 4.88	4.75
•	4.87 ~ 5.13	5.0
49	5.87 ~ 6.13	6.0
•	6.12 ~ 6.38	6.25
41	6.87 ~ 7.13	7.0
•	7.12 ~ 7.38	7.25
31	9.37 ~ 9.63	9.5
•	9.62 ~ 9.88	9.75
25	11.62 ~ 11.88	11.75
•	11.87 ~ 12.13	12.0
19	14.87 ~ 15.13	15.0
•	15.12 ~ 15.38	15.25
•	15.37 ~ 15.63	15.5
16	17.62 ~ 17.88	17.75
•	17.87 ~ 18.13	18.0
13	21.37 ~ 21.63	21.5
•	21.62 ~ 21.88	21.75
11	25.37 ~ 25.63	25.5
•	25.62 ~ 25.88	25.75
•	25.87 ~ 26.13	26.0

SSB/CW受信の場合

SSB/CW通信とは

SSB(Single Side Band)は、国際電話、船舶通信、アマチュア無線などに使用されている通信方式で、USB(上側波帯)とLSB(下側波帯)の2種類があります。アマチュア無線では、7.0~7.1MHz、14.0~14.35MHz、21.0~21.45MHzの周波数帯が使用されています。アマチュア無線家の慣例として、10MHz以下ではLSB、10MHz以上ではUSBを使っています。

CW(電報)通信は、モールス符号による通信で、各種業務用や、アマチュア無線に使用されています。

受信のしかた

① スプレッドダイヤルで同調をとるまでは普通の短波受信と同じ操作をする*2。モガモガ音が聞こえる。

② BFOスイッチをONにする。

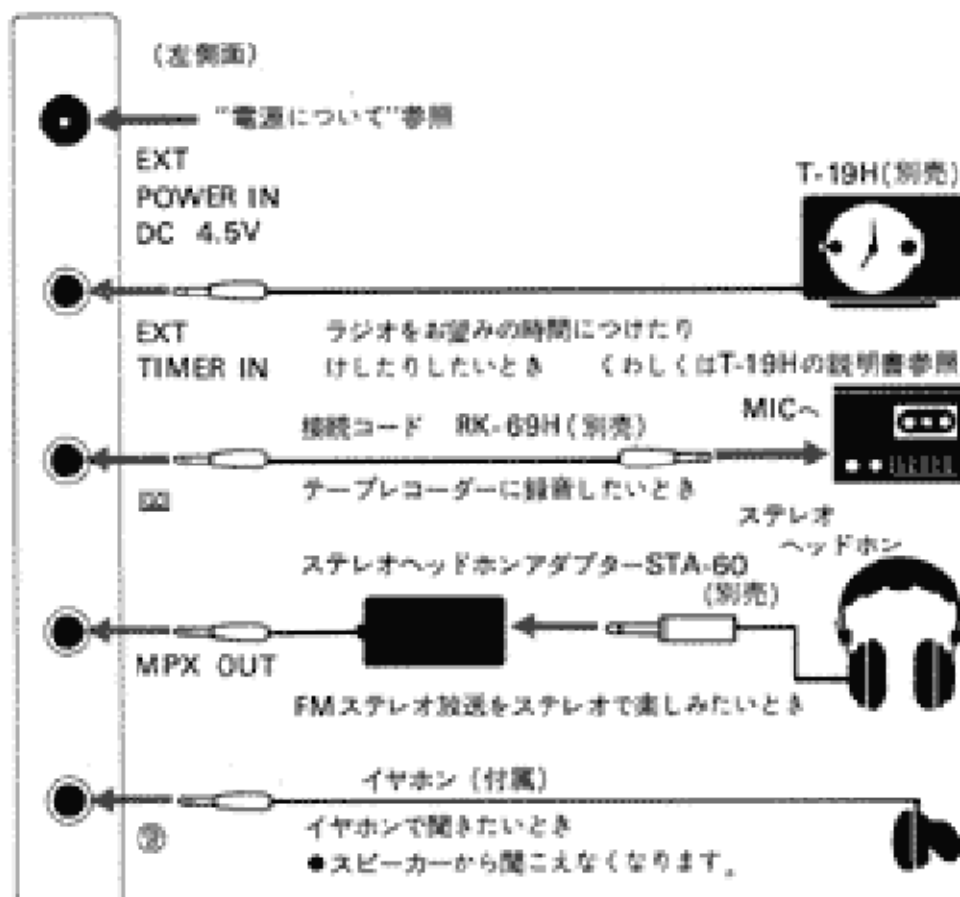
③ スプレッドダイヤルをゆっくり回すと、モガモガ音が高くなったり低くなったりする。低くなったところ(ゼロビート)からLSBの場合はプラス方向へ、USBの場合はマイナス方向へ少し回すと、話声が聞きとれるようになる。

CWの場合は、ゼロビートからどちらかへ少し回すとモールス符号が聞こえる。

SSB/CWの場合は普通の短波放送受信のときよりスプレッドダイヤルをゆっくり回して同調をとります。近くの局の場合はロッドアンテナでも受信できますが、遠くの局を受信する場合には外部アンテナが必要です。

*2 メインダイヤルを動かした直後は受信周波数がわずかに変化することがありますので、SSB/CW受信時には、メインダイヤルを校正点の位置にした後、2~3分してから受信するとさらに安定した受信ができます。

側面のジャックの使いかた



(右側面)



●イヤホンを使い終わったら、右側面のイヤホンポケットにしまっておいてください。

●イヤホンポケットのふたは、十分な強度をもっていますので、安心して図のようにお使いください。

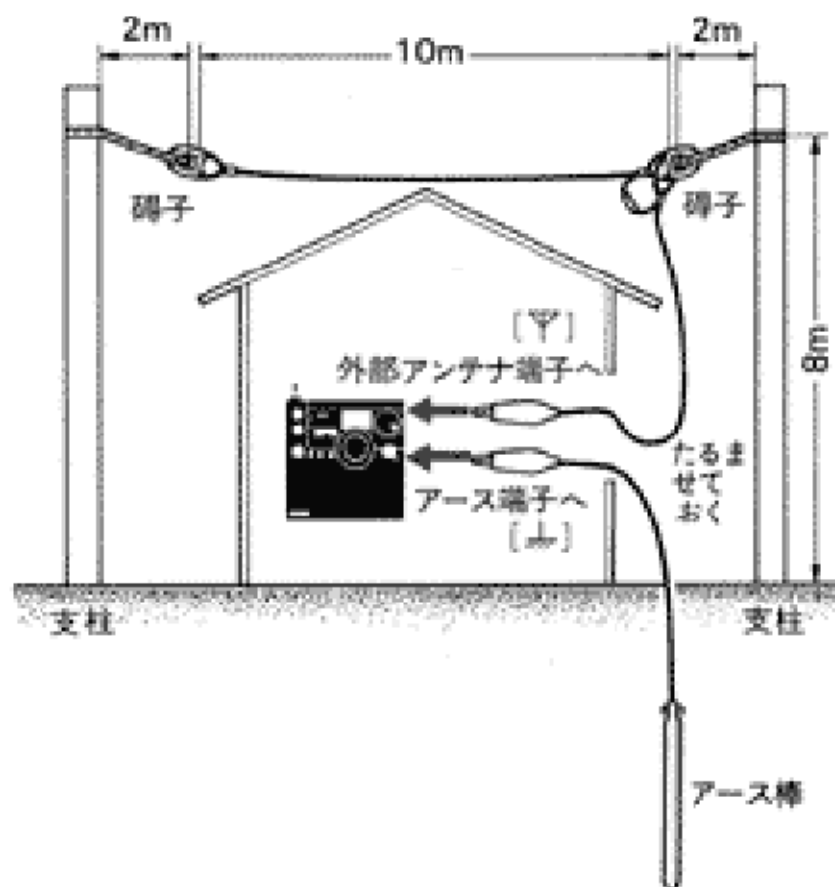
外部アンテナについて

短波

特に微弱なDX局を受信するのでなければ、通常はロッドアンテナで短波放送を楽しむことができます。しかしビルの中で受信するときや、さらに安定した短波放送受信のためには外部アンテナは大きな働きをします。

短波用外部アンテナには別売のソニー短波用逆L型アンテナAN-60をおすすめします。

(くわしくは、AN-60の取扱説明書をごらんください。)



FM・中波

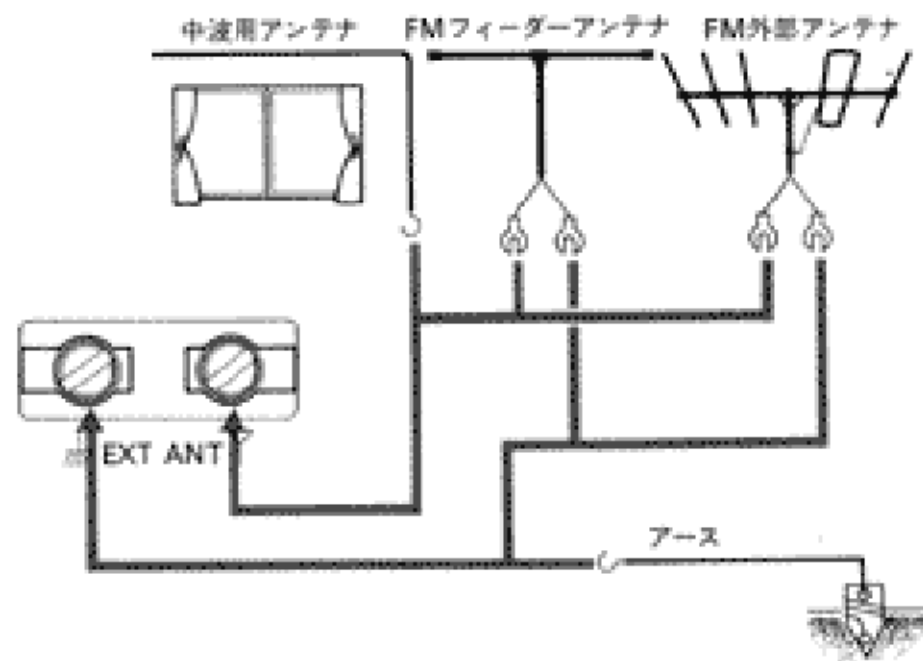
放送局から遠い地域でロッドアンテナや内蔵アンテナだけではよく受信できない場合には、外部アンテナ(市販)の利用をおすすめします。

FM放送受信用

市販のFM外部アンテナ、またはFMフィーダーアンテナをつなぎます。

中波放送受信用

10m位のリード線の一方の端をむいて、芯線を[▽]端子につなぎます。もう一方の端をできるだけ高く、窓際などにかけます。雑音が多い場合はアースをつけます。



保証書とアフターサービス

お買上げの際、保証書は必ずお受け取りください。保証書にお買上げ店名、住所、お買上げ年月日が入力されていることをお確かめください。これらの記入がないと無効になります。保証期間中の故障は、保証書の規定に基づいて修理いたします。保証書をよくお読みください。再発行はいたしませんので、大切に保管してください。

ラジオの調子が悪いときは、「トラブルチェック」(裏表紙)の項を参考にして故障かどうか点検ください。それでも調子が悪いときは、お買上げ店、または添付の「サービス窓口のしおり」にある最寄りのサービスステーションに保証書を添えてご相談ください。

このICF-5900の補修用性能部品(機械の機能を維持するために不可欠な部品)の最低保有期間は6年です。なお、詳しくは、最寄りのソニーサービスステーションにご相談ください。